

藺牟田瀬戸架橋

甕をひとつにつなぐ架け橋



鹿児島県 前 甕島支所長

鶴田 明寛

「太古の地球を感じる宝の島」昨年3月に指定された甕島（こしきじま）国定公園のテーマです。

甕島は、薩摩半島西方約30kmの東シナ海上にあり、有人の上甕島、中甕島、下甕島のうち上甕島と中甕島は平成5年に結ばれています。

甕島の豊かな自然は、幸せボンビーガールの美咲ちゃんが暮らす里町里（上甕島）、釣りバカ日誌のロケ地となった下甕町手打（下甕島）などご存知の方も多いと思います。

この里と手打は、甕島の両端の地であり、行き来するには定期船の限られた時刻にほぼ一日掛かりの行程になります。藺牟田瀬戸架橋（いむたせとかきょう）が完成すると、陸路で45km、いつでも自由に往来できます。

島にある診療所は、それぞれ医師が一人の勤務体制で、島を離れることができません。Dr・コトー診療所のモデルとなった先生も、まだ手打診療所でご活躍されておりますが、医師の確保は常に離島の課題であり、橋が架かることにより診療所の集約や連携体制を整え、医療の充実、医療の従事者の負担軽減が可能と



薩摩川内市里町(上甑島)のトンボロ地形」(薩摩川内市観光協会提供)



甑大明神橋



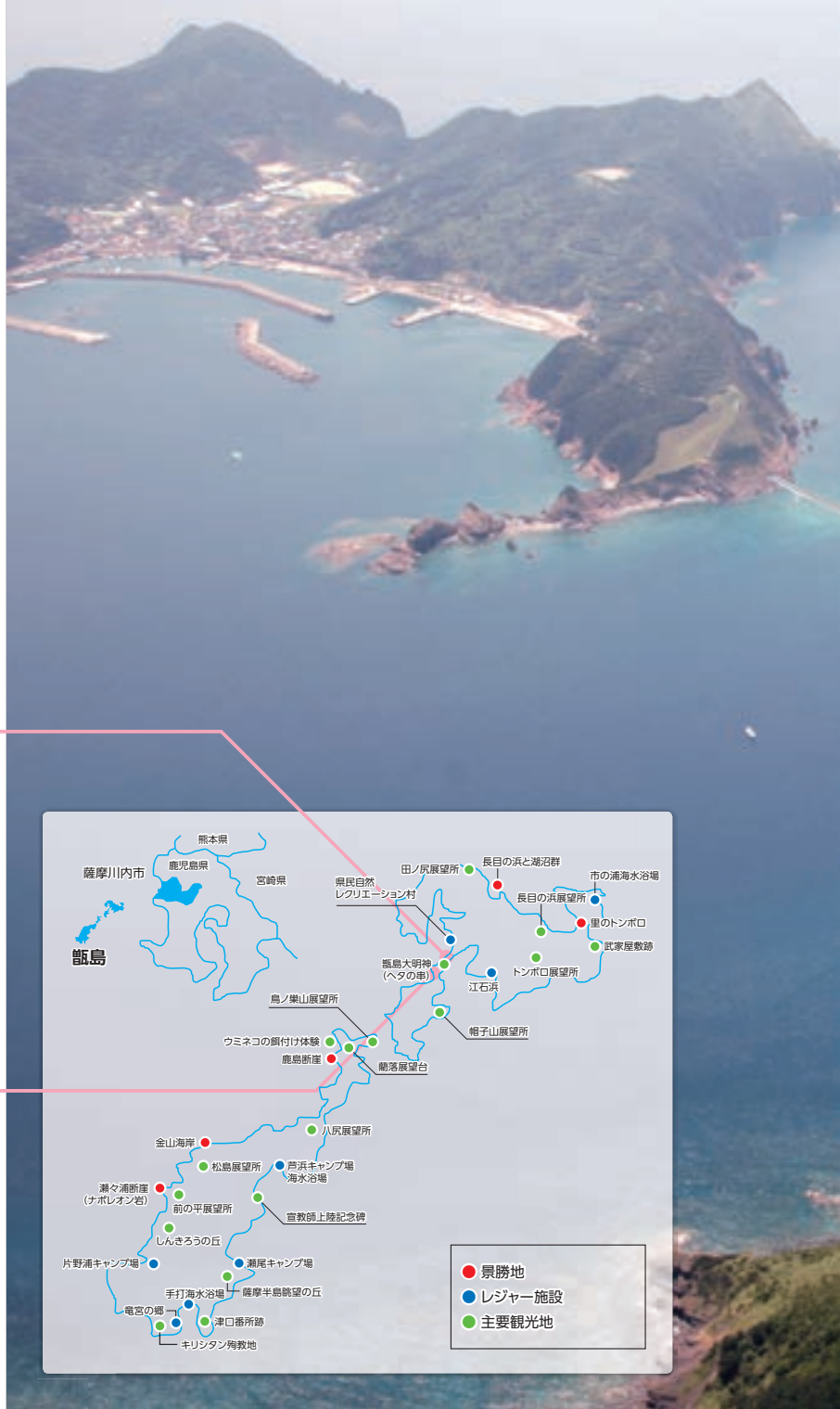
鹿の子大橋(写真:竣工当時)



ナポレオン岩

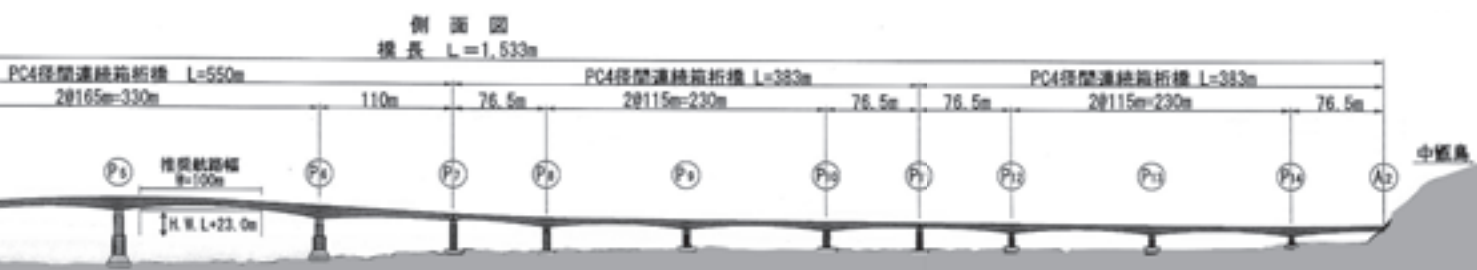


断崖クルージング



なります。また、下甑島にしか無い歯科診療所も全島で利用できます。小中学校についても、「同級生を増やしてあげたい」との思いから、統合による複式学級の解消も模索が始まっています。

このほか、災害や火災発生時における三島での応援体制、観光産業においては多様な観光メニューの開発など「甑をひとつにつなぐ架け橋」は多くの可能性を秘めており、島民の永年の夢が一刻も早く叶うよう取り組んでいます。



広域合併から2年後の平成18年、地元の熱い期待を受けて、中甕島と下甕島を結ぶ蘭牟田瀬戸架橋の事業が始まりました。事業延長は5.1km。3本のトンネルと1533mの蘭牟田瀬戸架橋からなっています。

蘭牟田瀬戸架橋の下部工、水深が深い中央部の5つの橋脚は、本土のフローティングドックで躯体を製作し、現地に曳航して、潮流が弱まるわずかな時間に据え付けられました。両側の陸域に近い橋脚は、仮架橋を設けて施工されています。

上部工は、橋長1533m、最大支間長165mの3径間+4径間×3(全15径間)からなる4連のPC連続箱桁です。

下甕島側の3径間PC連続箱桁橋は既に完成し、現在、オリエンタル白石(株)がP3～P4径間、コアツ工業(株)がP5～P7径間、ピーエス三菱がP7～P8径間の工事を進めており、残る径間も順次工事が始まると聞いています。

水深のある中央部の橋は作業船舶を使用して海上施工、その他の橋は下部工でを使用した仮架橋を利用して施工しています。私が担当しているP5～P7径間は海上施工の区間で、大型移動作業車を使用した片持張出し架設工法で桁を架設しています。海峡部で潮流が



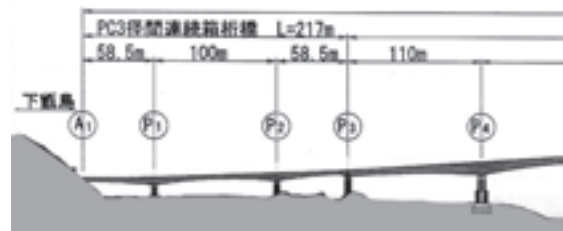
コンクリートミキサー船



起重機船



鹿島うみねこ祭り開催による現場見学会



コーアツ工業(株)
蘭牟田瀬戸架橋作業所長

堀之内 寿

強く、また南北方向にさえぎる山がないことから、夏は台風の影響を強く受け、冬期は北西風が吹き付ける大変厳しい作業環境です。風や波が作業中止基準（風速10m/s以上、波高1m以上等）を超えることも多く、コンクリートミキサー船による打設や起重機船による現場従事者の移動及び資機材運搬など、苦勞が絶えません。現地の下甕島に作業所と宿舎を構え、地元のみなさんとの日々の交流から、島に住む多くの方々が橋の早期完成を強く望まれていることを肌で感じます。みなさんの期待に応えるべく、この難工事を乗り越え、本橋の早期完成を目指し努めていく所存です。